

平成31年度 事業計画書
(2019年4月1日～2020年3月31日まで)

1. アーカイブ事業関連

グラフィックデザイン、グラフィックアート等に関する作品や資料の収集、保存及びその公開を行なう。また、活動に関わる諸テーマについて、独自で調査、研究を実施すると共に、国内外機関・個人との共同研究等も行なう。【定款 第4条(1)、(3)、(6)】

- ・コレクション・データベースの精緻化と利用促進を図る。
- ・ポスター高精細デジタル画像化は、将来的にポスターアーカイブの全作品のデータ化を目標に継続的に進める。平成31年度は、福田繁雄作品等を行なう。
- ・ポスターアーカイブは、寄贈表明いただいた作家からの寄贈を受け入れる。
- ・将来的にアーカイブセンターとして実現するべき機能・仕様を引続き実証・検討する。

(1) 田中一光アーカイブ

コレクション・データベースのメタデータの精緻化を進める。今年度は書類の保存用資材の改善とデジタル化を進める予定。

(2) ポスターアーカイブ

国内外の現代グラフィックデザインの秀作を次世代に文化資産として残すための収集活動を継続する。現在、寄贈受け入れ予定作家は、勝井三雄氏、上條喬久氏、粟津潔氏、等。

現在、国内 117 作家、海外 115 作家、計 232 作家、18,730 作品を収蔵している。

また、田中一光アーカイブ、永井一正アーカイブ、福田繁雄アーカイブのポスター寄託品を、海外をはじめとする他美術館へ寄贈する事業は、平成31年度は、SPACE 27(香港)への寄贈を行う予定。

(3) タイラーグラフィックス・アーカイブ

平成31年度、タイラーグラフィックスのコレクションによる収蔵品展をCCGAIにて1回開催し、他美術館への作品の貸し出しも行う。

(4) ポスター高精細デジタル画像化は、撮影、画像合成、専用撮影機材などを活用してポスター作品のデジタル保存(400dpi/解像度、800Mb程度/B1 サイズ)を進める。作業の進行は、優先順位や作業負荷、コストを考慮の上推進する。

(5) 作品データベースの活用

世界的に進む文化資源のデジタルアーカイブ化の動向を踏まえ、国際標準規格に準拠した、「DNP文化振興財団コレクション・データベース」の精緻化と利用の促進をはかる。

2. 展示事業関連

グラフィックデザイン、グラフィックアート等を中心とする優れた作品等の展示活動を行なう。展示企画内容により、必要に応じて国内外機関、個人との共同研究等を行ない、また、展示施設の管理運営を行なう。【定款 第4条(2)、(6)】

東京都 ggg、京都市 ddd、須賀川市 CCGA の3施設で展覧会を開催する。

平成31年度は、次ページに記載した予定表に従って展覧会を開催する。

- ・gggの展覧会開催スケジュールは、年7回開催とし、企画展ごとの効果的な開催期間を検証する。
- ・dddは、年4回の展覧会開催に加え、エリア内の美術デザイン系大学と連携した大学共催展を実施する。また、周辺地域での認知拡大を図り、広報活動も注力して継続する。
- ・CCGAは、「DNP グラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展」および「タイラーグラフィックス・アーカイブコレクション展」を開催する。

(1) gggとdddの会期日数、期間については過去2年にわたり見直しをおこない、通年で効果を上げてきた。その状況を踏まえ今年度も展覧会を開催する。

「TDC展」「ADC展」といった他団体との定例化した連携展は、集中的な来場促進を図り、1ヶ月程度(約20日)の開催期間とする。日本人作家の個展、海外作家の個展、テーマ展などは、1ヶ月半～2ヶ月(40日間前後)の開催とする。

(2) dddの大学連携企画

京都の大学や専門学校が多いといった土地柄を生かし、美術デザイン系の学校と連携を図るため、各教育機関で実施されているデザイン教育のカリキュラムを紹介する展覧会を開催する。

嵯峨美術大学連携

期間:2020年1月18日～3月21日(52日間)予定

タイトル: design ZOO いのちとときめきのデザイン展

(3) CCGAで展覧会に合わせて作家によるトークイベントを開催

6月15日(土)に、仲條正義氏と矢萩喜從郎氏によるギャラリートークを開催

(4) ggg、ddd については挨拶文や解説等について昨年度より開始した日本語、英語、中国語、韓国語についての対応を今年度も引き続きおこなう。

・ggg(銀座)展覧会事業 (予定)

企画展	会期
第 372 回 TDC 2019	4/3(水)～4/27(土)
第 373 回 井上嗣也展	5/14(火)～6/26(水)
第 374 回 田名網敬一の現在 (ddd から巡回)	7/5(金)～8/24(土)
第 375 回 コントラプункト展 (デンマーク)	9/5(木)～10/21(月)
第 376 回 日本のアートディレクション 2019(ADC)	10/28(月)～11/22(金)
第 377 回 カール・ゲルストナー展 (スイス)	12/2(月)～1/25(土)
第 378 回 河口洋一郎展(予定)	2/4(火)～3/21(土)

・ddd(京都)展覧会事業 (予定)

企画展	会期
第 220 回 本の縁側:矢萩多聞と本づくり展	3/30(土)～6/19(水)
第 221 回 ヘイセイ・グラフィックス:DGA コレクション展 (CCGA より巡回)	6/29(土)～8/17(土)
第 222 回 deValence 展 (フランス)	8/28(水)～10/23(水)
第 223 回 GRAPHIC WEST8: 三重野龍展(仮称)	11/9(土)～12/21(土)※ 仮
第 224 回 design ZOO いのちとときめきのデザイン展 (嵯峨美大デザイン学科 池田泰子)	1/18(土)～3/21(土)※ 仮

・CCGA(福島)展覧会事業 (予定)

企画展	会期
所蔵品展 「ヘイセイ・グラフィックス」展:DNP グラフィックデザイン・アーカイブコレクションより	3/1(金)～6/9(日)
企画展 「DNP グラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展 VIII:蔵出し 仲條正義」	6/15(土)～9/8(日)
所蔵品展 タイラーグラフィックス・アーカイブコレクション展 Vol.32	9/14(土)～12/23(月)
冬季休館	12/24(火)～2/29(土)
所蔵品展 DNP グラフィックデザイン・アーカイブコレクションより	3/1(日)～

ggg、ddd は入場無料とする。CCGA の入場料は、有料(一般 300 円、学生 200 円)とする。但し、以下の方々は無料とする。小学生以下と 65 歳以上の方、及び障がい者手帳をお持ちの方、地域の教育関係者(教員、学生)の教育を目的とした団体、オープニングイベント参加者、有料の講演会、映画会等への参加者 他

3. 教育・普及事業関連

グラフィックデザイン、グラフィックアート等に関するセミナーの開催、刊行物やインターネット等を通じた情報提供等の教育・普及活動の実施。【定款 第4条(4)】

グラフィックに関する知識・関心を、一般の方々に広げることを目的に、講演会、対談、ワークショップ、図書等の刊行、インターネットを通じた情報提供を行なう。

- ・平成31年度、gggBooks は3点を発行予定。アニュアルレポートは、8月に発行予定とする。
- ・gggBooks の電子書籍版の発行も継続し、電子図書館での利用を促進する。
- ・ギャラリートークは、無料動画ネット配信により、来場できなかった不特定多数の方々が広く参加できるものとする。
- ・須賀川CCGAにおいて、地元の版画文化振興と連携して版画工房ワークショップ、版画工房の一般開放、FaceBookサイトの運営を継続し、活性化を目指す。

・図書の刊行:

平成31年度は、展覧会と連動し、作家の作品集「gggBooks」を3点(発行予定作家: コントラプункト、カール・ゲルストナー、キギ)発行する。(キギは平成24年度 ggg にて展覧会開催)

・アニュアルレポート発行:

平成31年度は、「アニュアルレポート 18-19」を8月に発行し、翌年度刊行する「アニュアルレポート 19-20」の企画・編集を開始する。

・ギャラリートーク:

平成31年度は ggg(銀座)で8回、ddd(京都)で5回、CCGAで1回開催予定。
また、セミナーは、原則インターネットを通じて不特定多数の人に向けて配信する。
dddでは、ギャラリーの認知拡大にもつなげるために、外部(大学など)の会場を活用してセミナーを開催する。

・ホームページ:

不特定多数の方に向けて、新鮮な情報発信を行う。インターネットを活用した展覧会の予告、開催状況、ギャラリートークの予告、電子書籍などの告知、研究助成プログラムの告知・申込み・成果発表などに活用する。

中国語、韓国語についても段階的に対応を図る。

・版画工房ワークショップ:

CCGA版画工房ワークショップは、平成31年度、8月に銅版画講座、11月に木口木版講座の、2回を開催予定。

4. 国際交流事業関連

グラフィックデザイン、グラフィックアート等を中心とした国際交流を行う。【定款 第4条(5)】

・平成31年度は、gggにて2回、dddにて1回、海外作家の展覧会を開催し、海外のグラフィックデザイン事情を紹介する。海外作家、美術館学芸員などの講演会を、展覧会活動と連動して開催する。

・海外での日本のグラフィック展への協力をおこなう。

・世界のトップデザイナーによって構成される国際グラフィック連盟(Alliance Graphic International)の日本事務局のサポートを継続し、海外作家との情報交換を積極的におこなう。

・コントラプクト展(9月 ggg デンマーク)、カール・ゲルストナー展(12月ggg、スイス)、deValence 展(8月ddd、フランス)の企画展を開催し、各国大使館や美術館などとの文化交流を促進する。

・田中一光展(香港/9月)、松永真展(ドイツ エッセン/10月)などに協力をおこなう。

・AGI(国際グラフィック連盟)の総会2019(開催地オランダ ロッテルダム/9月)に参加し、世界各国作家との交流、およびグラフィックデザイン界の情報収集を行う。

・9月に京都で開催される ICOM(International Council of Museums; 国際博物館会議) 京都大会に関連し、同期間に ddd で開催している deValence 展のイベントをアンステイチュ・フランセ関西とともに開催する。

5. 研究助成事業関連

グラフィックデザイン、グラフィックアート等を中心とした芸術文化活動に対する顕彰及び助成。【定款 第4条(7)】

次年度も、グラフィックデザイン、グラフィックアートを対象とした、コミュニケーション、印刷複製、表現の理論、技術、知識、歴史などのテーマに対し助成をおこなう。また、CCGA(須賀川市)周辺で開催されるグラフィックアートに関連する文化事業に対して従来から行ってきた協賛を継続する。

平成31年度も継続しておこなうが、B部門の研究テーマを変更する。

A部門: 「グラフィックデザイン、グラフィックアート全般をテーマとする学術研究」、

B部門: 「グラフィック文化に関するアーカイブをテーマとする研究」

B部門はこれまで「グラフィックデザイナー、田中一光に関する研究」をテーマとしていたが、A部門において最近アーカイブに関する研究の応募が増えていることから変更する。田中一光に関する研究については引き続きA部門として受け付ける。

10月開催予定の審査委員会によって助成対象テーマを10件程度選考する。また、継続助成を希望するテーマについても審査する。

助成テーマの募集は、インターネットやチラシなどによって広く行い、国内外の研究者による研究を対象とする。

スケジュール

5月 平成31年度研究助成テーマ募集スタート

7月 応募締め切り

10月 審査委員会の開催

採択テーマの発表(発表後1年6ヶ月で成果の提出)

また、平成30年度末に助成期間満了をむかえる研究テーマについての成果発表を、一部日英2か国語表記で、ホームページ上と研究紀要の発行を通じて行う。

なお、今年度初めて開催した「研究助成成果報告会」が研究者同士の交流を図る機会として好評だったため、次年度も開催する。

さらにインターネットを活用した活性化の手法なども引き続き検討する。

以上